



憩いと安らぎをお届けする 綾部市立病院

広報

おあしす

2018.4
vol.44

インタビュー
院長×看護部長

新任職員紹介

医療技術部
医療技術部長 四方 学

訪問看護ステーション
管理者 荒樋 智子

近隣医療機関のご紹介
小佐々歯科診療所

リレーエッセイvol.23
株式会社PLANT

山下 圭一氏

Information(インフォメーション)

綾部市立病院



院長 高升 正彦
Takamasu Masahiko



Murakami Yoko
看護部長 村上 洋子

2018年4月、綾部市立病院は新たな院長、看護部長のもとスタートを切りました。
そこで、新たに就任した高升院長、村上看護部長にお話を伺います。



自己紹介をお願いします

高升院長 新院長の高升です。昭和33年生まれ、戌年の年男です。京都府立医大を卒業し、第3内科、現在の消化器内科に入りました。専門は内科で、主に消化器内科、胃や腸の診療をしています。昔は早期の胃がんを、おなかを切らずに内視鏡で治療する研究を主に行い、胃の次にある十二指腸の炎症(十二指腸炎)について、特に活性酸素との関連なども調べていました。今後院長になりましても、外来診療や胃カメラ検査などは、まだまだ続けていきたいと思っていますので、どうかよろしくをお願いします。

村上看護部長 看護部長の村上洋子です。舞鶴出身です。京都府立医科大学附属看護専門学校を卒業し、大学病院で勤務したあと、地元に戻り舞鶴医療センターで勤務し、結婚を機に綾部市立病院にまいりました。綾部に来て21年になります。



医師・看護師になって一番印象に残っている事は？

高升院長

あまり最近のことは、個人情報のことがありますが、綾部に来てからではなく昔のことを言いますと、ある患者さんが亡くなられ、どうしても病理解剖をしたかったのですが、ご遺族の方になかなか承諾をいただけないことがありました。



その時に一緒に診ていた研修医が、「もしも先生から解剖の希望があるようなら承諾するようにしてほしい」と患者さんが生前に言うておられたということを知っていて、それでご遺族の方も納得されて、病理解剖ができたということがありました。死を前にしてそのようなことはなかなか言えないので、感銘を受けましたし、何よりも患者さんとの信頼関係が大切だと、あらためて痛感した次第でした。

村上看護部長 印象的なことはたくさんあって、順位をつけることは難しいのですが、綾部市立病院で強く記憶に残っていることは、病棟で副看護師長をしていた時のことです。

その人は癌の患者さんで、何度も入退院を繰り返しておられました。入院の度に自分で生姜を炊いてお土産に持ってきてくださいました。気の知れた看護師に自分の炊いた生姜を振る舞うことが楽しみのように入院して来られていました。徐々に具合が悪くなってきた頃に夜中からそわそわと落ち着きがなくなり、「帰る!」と言って病室を出られ、家族の方も止めることができなくなりました。朝、出勤一番病室に行ったときに、すがるように「村ちゃん、僕は帰りたいんや」と言われました。スタッフみんなで急いで外泊の準備をし、息子さんの勤務終了を待って、暗くなってから外泊となりましたが、体の大きかった患者さんを車から家の中に運ぶのは家族だけでは到底無理だということに車に乗ってから気が付いたのです。すぐさま、見送っていた看護師と一緒にユニフォームのまま車で追いかけて、ご自宅の中まで運びました。この時、この病棟のスタッフたちとなら不可能なことは無い、と感じたことが思い出されます。また、患者さんの願いをかなえてあげることができたということは看護師として何にも代え難い喜びでした。この患者さんを最期までお世話し、見送れたことも看護師人生の中でかけがえのない思い出です。



改めて綾部市立病院とはどういった病院ですか？

高升院長 いろいろな特徴があると思いますが、一つは職員がみんな、親しみやすく、親切な人が多いということだと思います。周辺の他の病院と比べても、とくに看護師に対して患者さんからこのような声をよく聞きますし、一番の特徴ではないかと思っています。こういう風土ともいべき雰囲気は一朝一夕に作れるものではないので、これからも大切にしたいと思っています。

もう一つ、最近思うのは、病院のサイズ、大きさです。たまたまかもしれませんが、当院はベッド数206床で、これよりも小さいと、特に急性期医療でいろいろと出来ないことが増えてきますし、これよりも大きくなると、病院内での意思の疎通が十分にできなくなってくるように思います。現状は、新人歓迎会や忘年会など、全員で集まることができて、職員みんなの顔が見える関係ですので、非常にいいことだと思っています。

村上看護部長 「綾部弁の飛び交う、あたたかい病院」だと思います。院長もおっしゃったように、スタッフが優しく、職種を越えて交流があり、部門間の垣根が低い病院です。



綾部市立病院の看護を紹介してください。

村上看護部長 大切にしていることは「患者さんの持てる力を最大限に活用する」ということです。病気になると、いつもは自分でできていることができなくなるということがありますが、人の身体には自分自身で回復していくという自然の力が備わっていると学びました。その患者さんの持つ力を最大限に活かすように生活環境を整えることが看護師の役割です。そのためには、患者さん一人ひとりのことを深く知らなければなりません。



ん。辛いことは何だろうか？なぜ眠れないのだろうか？どんな風を感じておられるのだろうか？患者さん一人ひとりに強い関心を持つことから看護は始まると言われていています。このようなことを大切に看護することを心がけています。



最後に院長・看護部長に就任され、どのような病院や看護を目指されますか？

高升院長 あまり大したことない目標ですが、これからは、人口など右肩下がりの時代となりますので、その中で、ある程度現状維持ができれば、それは相対的には成長しているのではと思っています。まだ先の話ではあると思いますが、人口が減り、病院を受診する患者さんが減ることになり、そしてスタッフの数、特に医師の数が減っていくようでは、救急診療を含めた診療全般が維持できなくなっていくこととなりますので、そうはならないように力を尽くしていきたいと思っています。その中で、たとえば最近始まった特殊外来、糖尿病合併症外来や骨粗しょう症外来など、特色ある診療を育て、広めていくとともに、現在、非常勤で診療している部門の一つでも常勤化できるように努力したいと思います。患者さんから親しまれる病院であるとともに、職員もやりがいを感じ、働きやすい病院であることを目指していきたいと思っていますので、どうかよろしくをお願いします。

村上看護部長 私が今年度看護部長として初めて看護部のみんなに話したことは「当たり前のことがちゃんとできる看護師を育成する」です。綾部市立病院は、綾部市唯一の公立病院として地域のみなさんから愛され親しまれる病院を目指しています。市民のみなさんがいつまでも住み慣れた馴染みの場所で暮らし続けることができるように、安心して受診し、安心して入院生活を送り、安心して退院することができる。そのような当たり前のことがちゃんとできることを目標にして、真摯に取り組んでいきたいと思っています。私たち看護師は患者さん一人ひとりの「当たり前」を大切に看護していきたいと思っています。



高升 正彦
(たかます まさひこ)

プロフィール
昭和58年 京都府立医科大学卒業
資格等
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会近畿支部会評議員
京都府立医科大学臨床教授、医学博士

村上 洋子
(むらかみ ようこ)

プロフィール
京都府立医科大学附属看護専門学校卒業
資格等
日本看護協会認定看護管理者
京都府看護協会 中丹地区理事
口腔ケア学会 4級
救急救命士

医師

消化器外科

たい よう ひろ あき
大陽 宏明



4月より綾部市立病院に赴任いたしました。

今まで消化器外科・乳腺外科として経験を積んでまいりました。

ここ数年は腹腔鏡手術の修得に力を注ぎ、2014年度に日本内視鏡外科学会の技術認定を取得しました。

医療を行うにあたって、今日の医療の指針とされる様々な診療ガイドラインの遵守を心がけ、大規模病院でも行われる医療を地域に届けることを目標とし日々努力しております。

病院に、さらには地域の皆様の健康に貢献できるように努力していきます。よろしくお願いいたします。

医師

内分泌・糖尿病内科

おお さか たか ふうみ
大坂 貴史



平成30年4月より綾部市立病院に着任いたしました大坂貴史です。平成21年に京都府立医科大学を卒業後、京都南病院にて研修を行いました。京都第二赤十字病院で3年間働いたのち京都府立医科大学大学院博士課程を経て、この度の赴任となりました。

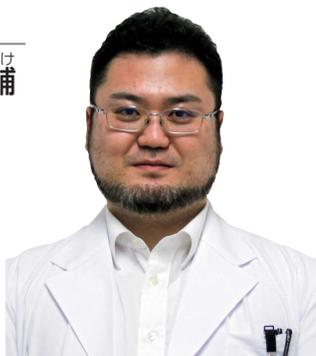
糖尿病という病気はほとんどの方が無治療でありながら放置すると合併症が進んでしまうという病気です。早期発見し、合併症の進行を遅らせる事で糖尿病の患者様が糖尿病でない人と変わらない生活を維持する事が大切な事だとされています。

綾部市民の皆様の健康に少しでも寄与できるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

医師

眼科

い おら たい すけ
井村 泰輔



平成30年4月より綾部市立病院に赴任いたしました眼科の井村泰輔と申します。当院では白内障手術、硝子体手術や糖尿病網膜症に対

する汎網膜光凝固術、加齢黄斑変性などに対する抗VEGF抗体硝子体内注射などを行っております。社会の高齢化に伴い、眼科疾患にかかれる患者様は増加しています。白内障のように自覚症状がでやすいものもあれば、糖尿病網膜症や緑内障のように無症状で進行し、発見時には治療が難しい状態になっているものもあります。何か調子が悪いなという時に気軽に相談して頂けるような診察を心がけていきたいと思っております。地域医療に貢献出来ますよう、尽力していきます。よろしくお願いいたします。

医師

泌尿器科

さわ だ だい すけ
澤田 大輔



はじめまして、今年度4月より綾部市立病院に赴任しました泌尿器科の澤田大輔と申します。平成27年に京都府立医科大学を卒業

後、済生会滋賀県病院、京都府立医科大学附属病院で研修し、京都府立医科大学附属病院泌尿器科に入局いたしました。泌尿器科といえばあまりなじみのない科かもしれませんが、腎、尿管、膀胱、前立腺、生殖器といった臓器の悪性疾患や排尿障害等生活の質の関わる疾患を扱っています。また当院では腎不全、透析も扱っています。綾部市は初めてで縁もゆかりもありません。まだまだ未熟者ですが、精いっぱい頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

医師

研修医

たか くら
高倉 駿



みなさんこんにちは。4月より綾部市立病院で2年間、初期臨床研修医としてお世話になります高倉駿と申します。生まれは滋賀県の大津市で、綾部と少し雰囲気似ている町で育ちました。学生の頃、何度か綾部市立病院には足を運ばせて頂き、皆様の明るく楽しく、チームワークの良い仕事場に憧れを感じました。自分が晴れてその一員に加わられた事をとても嬉しくあると同時に、輪を乱さないようにと気を引き締めております。生まれ育った環境のせいか昔からのほほんとしており、皆様をイライラさせてしまうことが多々あると思いますが、少しずつステップアップして戦力になりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

薬剤部

薬剤師

し かた とも や
四方友也



今春から薬剤部でお世話になります四方友也と申します。

私は生まれも育ちも綾部市で、大好きなこの土地で働けることを大変嬉しく感じております。大学時代の病院実務実習でお世話になり、笑顔の溢れる温かな雰囲気にも心惹かれました。大学を卒業したばかりでまだまだ未熟者ですが、多くの事を尊敬できる先輩方から学び日々成長していけるよう頑張ります。音楽を聴くことが好きなので休日は音楽を聴いてリラックスしています。よろしくよろしくお願いいたします。

薬剤部

薬剤師

し お み
塩見のぞみ



4月から薬剤部に配属されました塩見のぞみです。今春、神戸薬科大学を卒業し、綾部市立病院が初めての職場となります。祖父の母の家が綾部市にあり、幼い頃から慣れ親しんだ温かい雰囲気のこの地で働けることを大変嬉しく思います。初めての現場では緊張の連続ですが、尊敬する先輩方に少しでも近づけるように精一杯頑張ります。日々のたくさんのご指導をより多く吸収し、早く患者さまのお役に立てるように精進致しますので、よろしくお願いいたします。

リハビリ
テーション科

作業療法士

ます ひろ たか
増 洋孝



作業療法士の増洋孝と申します。私は元々別の仕事を志していたのですが、作業療法士の仕事に魅力を感じ、思い切って地元の石川県を出て大阪の専門学校に入学しました。そしてこの春、綾部市立病院に入職させていただきました。自分の選んだ道が本当に正しかったのか悩んだ日々もありましたが、今は作業療法士になれたこと、綾部市で働けることを心から嬉しく感じています。まだまだ未熟ではありますが、日々一生懸命頑張らせていただきます。皆様ご指導よろしくお願いいたします。

リハビリ
テーション科

理学療法士

かじ え あつ し
梶 惠 涼 介



4月から綾部市立病院で働かせていただくことになりました、理学療法士の梶惠涼介と申します。

私の地元は宮津市なのですが、以前は兵庫県姫路市で4年程暮らしていました。この春から京都へ帰ることとなり、ご縁があって綾部市立病院へ入職させていただきましたことになりました。

今年で理学療法士5年目に突入しました。まだまだ未熟な面もあるかと思いますが、一生懸命に頑張りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

4月から 綾部市立病院の看護師です！！ よろしくお願いします。

看護部

看護師

たか はし つとむ
高橋 功



自然豊かで、人の温かな綾部で働くことをとても楽しみにしています。綾部に永住する予定ですので、身を粉にして、地域の皆様に貢献していけるよう頑張ります。よろしくお願いします。

看護部

看護師

たに ぐち か ほ
谷口果穂



出身は南丹市です。綾部市立病院は実習で何度かお世話になりました。その中で、スタッフの方々が患者様とご家族に対して、親身に寄り添う姿を見て共にこの病院で働きたいと思いました。知識・技術共にまだまだ未熟ですが、地域に貢献できるように日々努力し頑張りますので、よろしくお願いします。

看護部

看護師

ひがしむら み さと
東村美里



福知山市出身です。綾部市の魅力については地域の方と関わる中で知っていきたくと思っています。また人として、看護師として大切なことを先輩看護師さんや、他の医療関係者の方や、病院に来られる地域の方からたくさん学びたいと思っています。まだまだ分からないことばかりで未熟ではありますが、日々の生活の中で多くのことを吸収して、新社会人として、看護師として成長していきたいと思っています。よろしくお願いします。

看護部

看護師

つじ た み か
辻田美歌



綾部市は安心感があり、とても居心地がよい土地だと学生のころから感じていました。綾部市立病院は何度か実習させていただき、みなさん優しく温もりを感じ、私も病院のスタッフの一員として働きたいと思いました。知識や技術は未熟ですが、患者様に寄り添える看護ができるよう頑張ります。よろしくお願いします。

看護部

看護師

くず わ なつ き
葛和夏希



この春京都府立看護学校を卒業しました。在学中から、この慣れ親しんできた地元、綾部で働きたいと考えており、念願叶って嬉しく思います。新人看護師として日々たくさんの方のことを吸収し、今自分に出来ることは何かを考え、患者様一人ひとりに寄り添ったあたたかい看護が提供できるよう学んでいきたいです。

持ち前の笑顔を忘れず、元気に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

看護部

看護師

まきのこゆき
牧野子雪

地元は久美浜町で与謝野町の学校に通っていましたが、綾部市のことは分からないことが多いですが、充実した生活を送れたら良いと考えています。知識・技術ともにまだまだ未熟で慣れないことも多いと思いますが、先輩看護師さんに多くのことを教わり吸収していきたいと思っています。患者様に寄り添える看護師を目指し、日々笑顔を大切に頑張りますのでよろしくお願いいたします。

看護部

看護師

まるおかこゆき
丸岡来袖季

出身は福知山市です。まだまだ未熟で分からないことも多くありますが、これから多くのことを学び、経験しながら知識、技術を身につけ成長していきたいと思っています。また、患者様一人ひとりと向き合い、思いに寄り添った看護を提供していきたいと考えています。日々、努力することを怠らず、地域医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

看護部

看護師

じゃじまりな
麿嶋莉奈

生まれ育った綾部の町で、看護師として地域に貢献していけることに喜びを感じています。笑顔を忘れずに患者様、ご家族の思いに寄り添える看護を提供できるよう日々努力して頑張っていきます。

また社会人としての自覚と責任を持ち、先輩看護師さんから多くのことを学んでいきたいです。よろしくお願いいたします。

看護部

看護師

いけだまりな
池田満里奈

実習でお世話になった時には、スタッフの方々が、患者様の気持ちを大切にされた温かい対応をされており、私もそんな看護師になりたいと思いました。知識や技術はまだまだ未熟ですが、笑顔を忘れず、信頼される看護が行えるよう努力します。そして、地域医療に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護部

看護師

てらさわたろう
寺澤太郎

生まれは京都の太秦で今年の3月に明治国際医療大学を卒業しました。初めての一人暮らし、初めての職場ということで多少不安もありますが、社会人として綾部市立病院の職員としての自覚を持ち、患者さんのお役に立てるように精一杯頑張ります。



質の高い医療技術を心のこもった 対応とともに提供します

初めまして、今年度より医療技術部長に就任した四方学です。綾部出身で当院に就職して今年でちょうど25年になります。その間、当院は150床から現在の206床の地域中核病院へと成長し、平成18年に医療技術部が発足しました。

「国家資格を有した医療技術者を一元的に組織化し、診療支援ならびに患者サービスの向上・健全な病院経営への積極的な参画」を目的とし、リハビリテーション科・臨床工学科・視能矯正科・栄養科・放射線技術科・臨床検査科、総勢48名で構成しています。（平成30年4月現在）

リハビリテーション科は、基本動作練習や日常生活動作練習などを通じて、社会復帰・家庭復帰のサポートを行っています。臨床工学科は、血液浄化療法（人工透析）、ペースメーカー外来などを通じて質の高い技術を提供し、また院内の医療機器の安全を保っています。視能矯正科は、視力検査・視野検査などの眼科一般検査、斜視・弱視改善に向けた訓練や目のリハビリを行っています。栄養科は、病状に合わせたお食事を提供し、入院患者様への栄養管理はもちろんのこと外来患者様に対しても母親学級・生活習慣病予防教室にて栄養相談を行っています。放射線技術科は、X線撮影（レントゲン）をはじめ様々な機器を駆使し、質の高い情報を含んだ画像を提供しています。臨床検査科は、血液や尿をもとに多くの検査項目を分析し、また心電図検査など幅広い生体情報検査を行っています。さらに病理検査ではがん細胞の有無、細菌検査では菌を特定して、診断・治療に寄与しています。

「チーム医療」とは、スタッフが各々の技術や専門知識をもって連携し、患者様に合った医療を実践することです。我々も各々の技術を活かしてこの役割を果たします。

今後、医療分野において大きな変化が予想されます。医師や看護師らとも連携を図り、時代の先端技術を習得し、保証された質の高い医療技術を心のこもった対応とともに提供していきます。

リハビリテーション科



臨床工学科



視能矯正科



栄養科



放射線技術科



臨床検査科





「その人の生き方に寄り添い、 笑顔届けたい」

綾部市立病院訪問看護ステーションは、看護部の一部署に位置付けられ、現在、訪問看護師6名、ケアマネジャー2名、事務職員1名で、訪問看護事業と居宅介護支援事業の2事業を行っています。私たちは、地域にお住まいのすべての人を対象に、地域の病院や診療所、開業医と連携し、住み慣れた場所で必要な医療を受けて頂き、健康を維持して、その人らしい暮らしが営めるように地域の中で看護を提供しています。

入院して治療を受ける期間は一般的に平均して2週間程度と言われています。退院後、通院できれば良いのですが、様々な家庭の事情で通院できない方もおられます。仕事を続けながら治療を受ける人、障害のある人、家で最期を迎えたい人、様々なライフステージにおける健康上の悩みに私たちが何かお役に立てることがあればと思います。

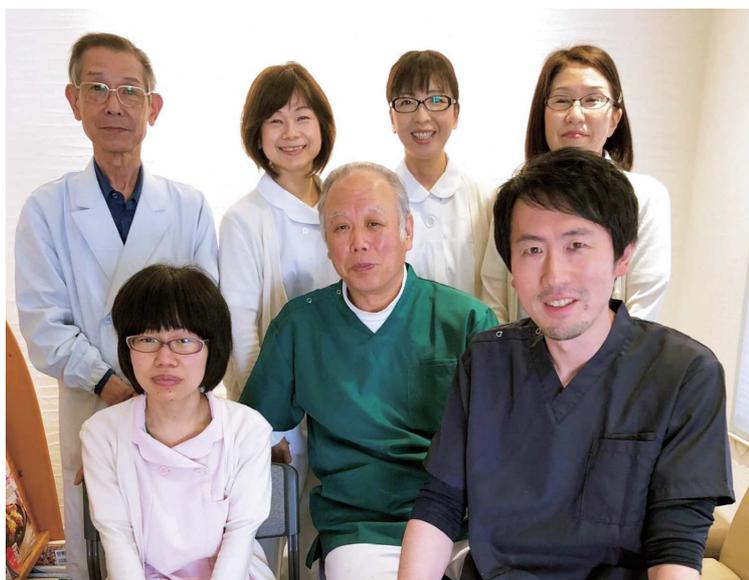
訪問看護師への相談で最も多いのは、生活動作に関わることです。例えば「湯船から上がれず、怖かった。家族もお風呂の入れ方がわからない。」などです。このような場合、訪問看護師は本人の体調や普段のお風呂の入り方、脱衣場や浴室の環境などを確認します。そして暮らしの習慣やこだわりを大事に、自宅の浴室で普段使っているシャンプーなどの馴染みの道具を使い、その人が安心してお風呂に入れる方法を一緒に考えます。注射などの医療処置がないと訪問看護師には来てもらえないと思っている人もあるかもしれませんが、そうではありません。体調上の困り事があれば、まずは訪問看護ステーションに御相談ください。



綾部では高齢者の暮らしの相談が多くあります。看護師の資格を持つケアマネジャーが介護相談に応じます。介護保険は、その人の暮らしの自立を支援する制度です。綾部の様々な資源を紹介し、老いてもますます元気に楽しく暮らし続けられるように、そして、その方の人生に寄り添えるように相談させていただきます。

私たちが関わることで少しでも不安が解消され、笑顔を届けることが出来れば幸いです。

近隣医療機関のご紹介



小佐々歯科診療所は1975年に綾部市に開業し40年以上が経ちました。昨年度より父 小佐々順夫から院長を引き継ぎ現在2人体制で、子供からお年寄りの方まで幅広く診療をしております。

口は全身の健康の入り口であり、全身の健康とも深い関係がある事がわかってきました。特に歯周病と全身疾患との関連性は強く、当診療所でも特に力を入れ、予防や定期検診、治療に取り組んでいます。

地域の皆様が生涯を通じて歯と口の健康を保ち、元気で楽しい生活を送れるようスタッフ一同サポートして行ければ幸いです。

歯科

小佐々歯科診療所

院長：小佐々 望太
小佐々 ゆきお 順夫

〒623-0024 京都府綾部市田町15
TEL.0773-42-5858 FAX.0773-43-0256

■外来診療時間(日・祝は休診)

外来診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—	—
14:00~17:30	○	○	—	○	○	—	—	—



リレーエッセイ vol.23

株式会社 PLANT 山下 圭一



10年間で13万キロ走った愛車もついに所々ガタがきたため車検を機に新車を考えることになった。

我が家の大蔵大臣から予算が示され、決めた車の値段が予算よりかなり高かったが、意外にもOKがでた。ただし条件が示された。それは、「禁煙」。つまり、たばこをやめろとの事。38年間吸い続け、過去に何度かトライしたが、1ヵ月弱で挫折を繰り返している。

そもそも、私がたばこを吸い始めたのは大学3年の頃。周りの友人達が吸い始め、私も自然に吸い始めた。

その当時はあまり、たばこの害について知られておらず、どちらかと言えばテレビなどのマスコミで頻繁に喫煙が宣伝されていた。

たばこの有害性が論じられたのは今から20年程前と浅く、その頃には私はニコチン中毒者となっていた。

さて、私が禁煙を始めて5ヶ月が経過した。当初、市販の禁煙パッチを1週間だけ腕にはり、一番苦しい時を乗り

切った。あとは、メントールガム。常に口に含み、ぐらぐらと揺らく気持ちになった時、そのガムをくいしばり自分に負けるなど鼓舞した。飲み会でたばこを吸っている人のそばに座り、自分を試す心の余裕までできた。さあ今回は成功したか？ここまで頑張ってきたことを無駄にしたくないという強い気持ちはある。

禁煙宣言!! 次はメタボ改善だ!!



今回は、主婦 安村京子さんです。

糖尿病教室・試食会のご案内

詳しい案内チラシは外来インフォメーションコーナー、栄養相談室前、内科4診中待ち合いにございます。教室の内容は毎回変わります。糖尿病の方やご家族の方、また、糖尿病が気になる方もぜひご参加ください。

■開催場所：綾部市立病院 東館 2階 講堂

■糖尿病教室：無料、申込不要、参加自由

日程 5月21日(月)／6月18日(月)
7月23日(月)／9月 3日(月)
※8月はありません。

時間 13:00～14:30

■試食会：実費、申込要 (先着15名)

日程 5月 7日(月)／6月 4日(月)
7月 2日(月)／8月 6日(月)
※9月はありません。

時間 12:30～14:30

試食会のお申込み 0773-43-0123 栄養科
(内線191)

受付

月～金曜(祝日を除く)／9:00～17:00

3月をもって退職いたしました

この度、平成30年3月をもって無事に定年を迎えることができました。まずは、地域住民の皆様、多くの関係者の皆様に心から感謝申し上げます。平成2年の開院当初、何も決まっていない真っ白な状況の中で、職員一同、心を一つにして新しい病院を築き上げようとする情熱と活力に満ち溢れていました。その精神は今でも引き継がれ、病院発展の大きな原動力になっています。昨今、社会の高齢化が進み、医療ニーズが多様化する中で、医療制度が大きく変わろうとしています。医療と介護をつなぐ包括的な体制づくり、また効率的で効果的な病院運営や働き方改革など、多くの課題が浮かび上がっています。今後、新院長の指揮の下、持ち前のチーム力を活かして難題に立ち向かい、更なる発展を遂げることを期待して、退任のご挨拶と致します。



名誉院長
鴻巣 寛

H29年度 退職医師

診療科	氏名
外科	鴻巣 寛 ※
外科	岡山 徳成
眼科	高家 近 ※
内分泌・糖尿病内科	千丸 貴史 ※
整形外科	小池 宏典 ※
泌尿器科	莊子 万可
神経内科	能登 祐一 (非常勤)
呼吸器内科	長谷川 浩一 (非常勤)
耳鼻咽喉科	中野 宏 (非常勤)

※退職後は、非常勤医師として外来診療に従事します

平成29年度 診療実績

(単位：人、件)

項目	年間	1日平均	前年度 1日平均
入院患者数	65,612	179.8	173
外来患者数	141,452	582.1	601.2
再掲 救急搬送患者数	1,507	4.1	3.8
再掲 時間外救急患者数	7,434	20.4	21.3
手術件数	1,466	※ 5.6	※ 5.7
人間ドック等利用者数	2,361	※ 9.7	※ 9.5
出産件数	53	—	—

※印は実施日1日当たりの平均

